

科目名		テーマ		
少子高齢化社会概論		少子高齢化社会の実態を理解するとともに、そこに存在する様々な課題を認識し、解決していくための基本的な考え方を育成する。		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修/指定科目
赤司 秀明	1年	2	社会福祉	必修/ 教職課程科目(教科)

[授業の内容・到達目標]

著しい少子化と高齢化が同時に進行する人口学的現象をさして少子高齢化というが、少子高齢化社会は単に人口構造の変化ということだけでなく、現役世代の負担の増大、労働力人口の減少、貯蓄率の低下、イノベーションの停滞、消費需要の縮小、消費構造の固定化傾向、投資意欲の衰退、社会保障給付費の増加、年金財政の危機、医療費の高騰、介護需要の激増、保健福祉マンパワーの問題、家族関係の変容、孤独死など地域社会の問題、その他さまざまな課題を含み持っている。

我が国の高齢化の速度は速く、1970年に高齢化率7%を越えて「高齢化社会」、1994年には14%を越えて「高齢社会」となり、現在は5人に1人が高齢者という社会となっていて「超高齢社会」と言っても過言ではなく、世界のトップレベルの長寿国ともなっているが、少子化も著しく進行しており、刻一刻と統計データも変化している。

本講義では、最新の統計データをもとに、少子高齢化社会に関する日本と世界の現状、歴史、先行研究の知見、考え方の基礎となる哲学、さまざまな課題の発掘及び対応策などに関する理解を深め、学生が福祉の視点から少子高齢化社会の今後を展望し、問題解決策を自ら考えることのできる力をつけることを到達目標とする。

[授業方法]

少子高齢化社会問題は比較的新しい分野であり、概論として適切なテキストが少ないので [授業計画] に基づき、参考となる資料等を準備して授業をすすめる。授業形態は、講義の前半で少子高齢化社会の実態への理解を深め、後半に問題提示と質疑応答の時間をもち、主体的に課題を発見し、問題解決に取り組む思考力を育むことにも留意する。

授業終了時、次回の予告を行い、準備学習の箇所・内容を指示する。または、読んでおくべき事前資料を配布する。

[成績評価の方法]

成績評価は、以下のように行う。

- | | |
|------------|-----|
| ① 授業への参加態度 | 10% |
| ② レポート | 30% |
| ③ 試験成績 | 60% |

[テキスト]

毎回データを更新したプリントを配布

[参考文献]

金子勇「高齢化と少子社会」ミネルヴァ書房
内閣府「高齢社会白書」ぎょうせい
厚生労働省「厚生労働白書」ぎょうせい

[履修上の注意・その他]

参考ホームページ

国立社会保障・人口問題研究所 (<http://www.ipss.go.jp/>)

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	[授業科目「少子高齢化社会概論」のオリエンテーション]
2	日本の少子高齢化と世界の動向
3	少子化と高齢化の社会学
4	少子高齢化と家族Ⅰ
5	少子高齢化と家族Ⅱ
6	少子高齢化と経済
7	少子高齢化と社会生活
8	[中間まとめ]
9	少子高齢化社会と保健福祉
10	少子高齢化社会と介護福祉
11	少子高齢化社会と地域、産業
12	少子高齢化社会を支える科学技術
13	少子高齢化社会への基本施策
14	21世紀の少子高齢化社会の課題と展望
15	[まとめ]